

妻垣神社第2回パネル資料展 先人たちの軌跡 - 貴重な資料を未来へ -

① 妻垣神社2600年の歴史

古くより宇佐郷の宗社として仰がれている妻垣神社は、来る平成27年(2015)に社殿が創建されて1250年目の節目の年をお迎えします。比咩大神、八幡大神、神功皇后をお祀りし、明治12年(1879)に県社となり、郷土の篤い崇敬を受けてきました。その昔、本宮(足一騰宮)は神武天皇様によって、共鑰山(妻垣山)に比咩大神(御母玉依姫命)がお祀りされた聖跡です。妻垣神社は我々の守護神として遠き祖先より継承崇敬され、栄枯盛衰を繰り返してきました。2600年続いてきた当社の歴史と現在の様子を紹介します。

② 騰宮學館～人皆神の御子～

大正2年(1913)、中等教育の機関が1校もなかった宇佐郡山中部に、社司林正木氏が私財を投じて、山中部の中心である妻垣神社境内に校舎を新築し、足一騰宮に因んで「騰宮學館」と名付け私立の中等教育校として開校しました。小学校教員養成科と神職養成科を設け、氏は『人皆神の御子』の教えに基づき、分け隔てなく学問を志す者は誰でも入学させてきました。しかし残念なことに終戦後の学制改革で突然の閉校となり、引き続き子息直木氏によって女子専門学校として運営しました。しかし時代の流れにより女学校も昭和38年(1963)に閉校となりました。前後を通じて約2000人以上の学生生徒を世に送り出し、卒業生は社会のあらゆる方面に活躍してきました。

昨年、980名分の卒業名簿が発見され、本日ここに一般公開します。

③ 松本清張と妻垣神社

松本清張は『点と線』『ゼロの焦点』『砂の器』など多くの作品で知られる日本を代表する文豪です。清張が作家としてデビューする前の無名な時代、北九州において朝日新聞西部支社の臨時囑託として勤め生計をたてていました。その折、古代史が好きであった清張は、休暇を利用しては愛用の自転車にまたがり、遺跡・史跡が残る地域を廻っていました。そんな中、昭和17年(1942)足一騰宮の伝承が残る安心院に立ち寄り、霧が立ち込める盆地南の共鑰山の麓にある妻垣神社や騰宮學館の様に深く感銘を受けたようです。のちに小説『陸行水行』(昭和36年(1961))の中では、安心院や妻垣の様子が古代ロマンに満ちて描かれています。当時の清張直筆の貴重な手紙や、100冊を超える清張の作品を展示します。

神社・行事に関するお問い合わせ

妻垣神社社務所 (TEL0978-44-2519) まで

妻垣神社秋季大祭日程

22日

- 8:00 第28回ゲートボール大会
- 9:00 第2回パネル資料展、開場
- 13:00 神社本殿にて例大祭・神幸祭お発ち祭

【神輿巡幸】

- 14:30 妻垣荘 → 14:40 大口田 → 14:50 寺山
- 15:00 古市 → 15:10 上市 → 15:20 妻垣
- 15:30 神社頓宮にてお着き祭
- 17:00 第2回パネル資料展、閉場

23日

- 8:00 第33回ソフトボール大会
- 9:00 第2回パネル資料展、開場
- 9:00 十ヶ平神楽社、妻垣荘にて神楽奉納
- 10:00 十ヶ平神楽社、神社にて神楽奉納(18:30まで)
- 15:00 是永宇佐市長参拝 (神楽『豊栄の舞』奉納)。
第1回句会、大隈草生先生の講評会。
- 15:50 神社頓宮にてお発ち祭。
- 16:00 神楽『神迎』奉納、神輿お上り
- 17:00 神社本殿にてお着き祭
- 17:00 第2回パネル資料展、閉場

※ 23日午後より、もちまき(5回)があります。
わた菓子も無料でふるまわれます。